

箕輪奇談

卷之五

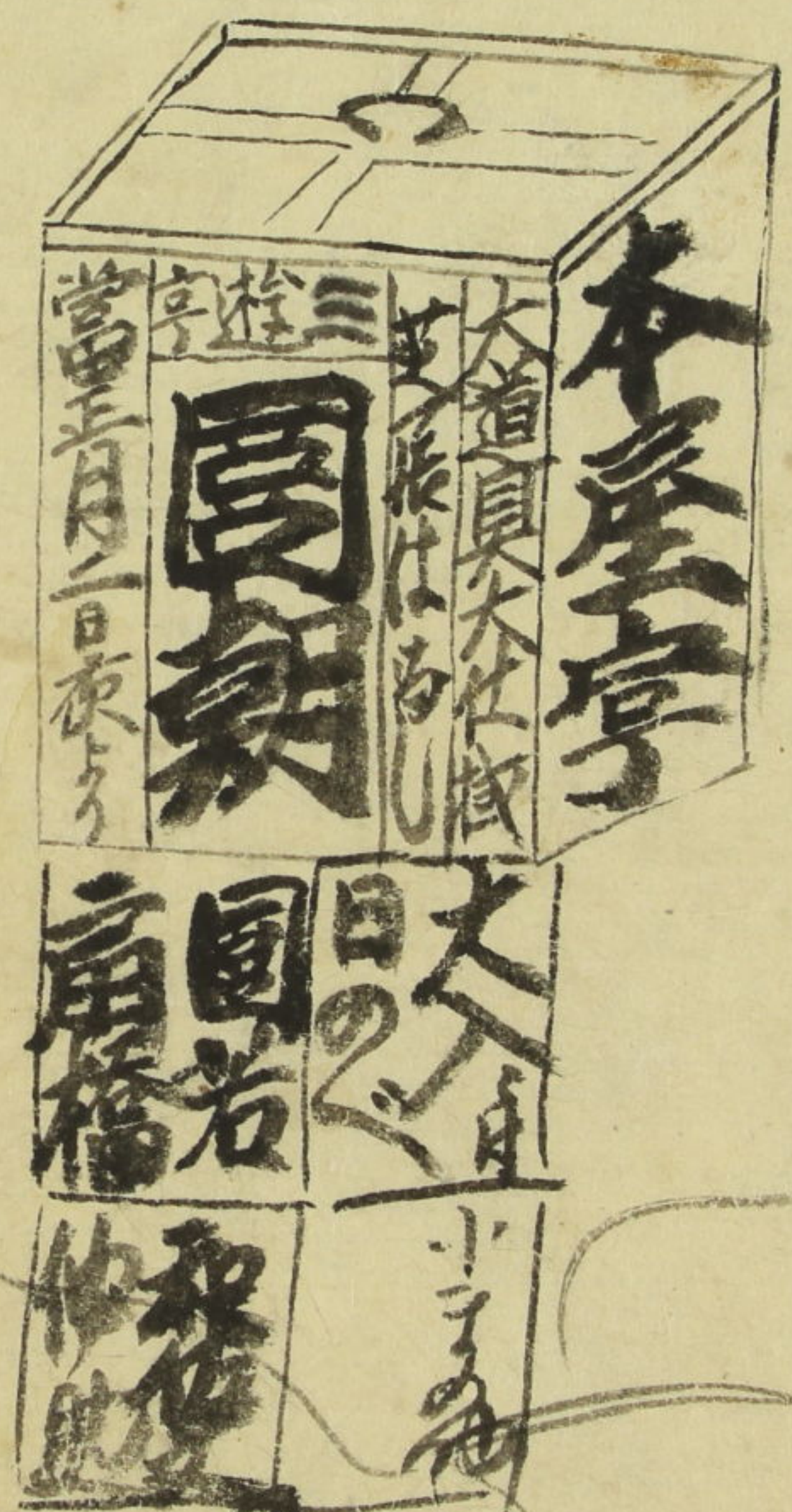
^ 13
3383
5



13
3383
5

出遊田子浦風景更無無
蟬仰見高天白芙蓉雪色定う風景

大用
御神
八八



名公の詔巻の八



目錄



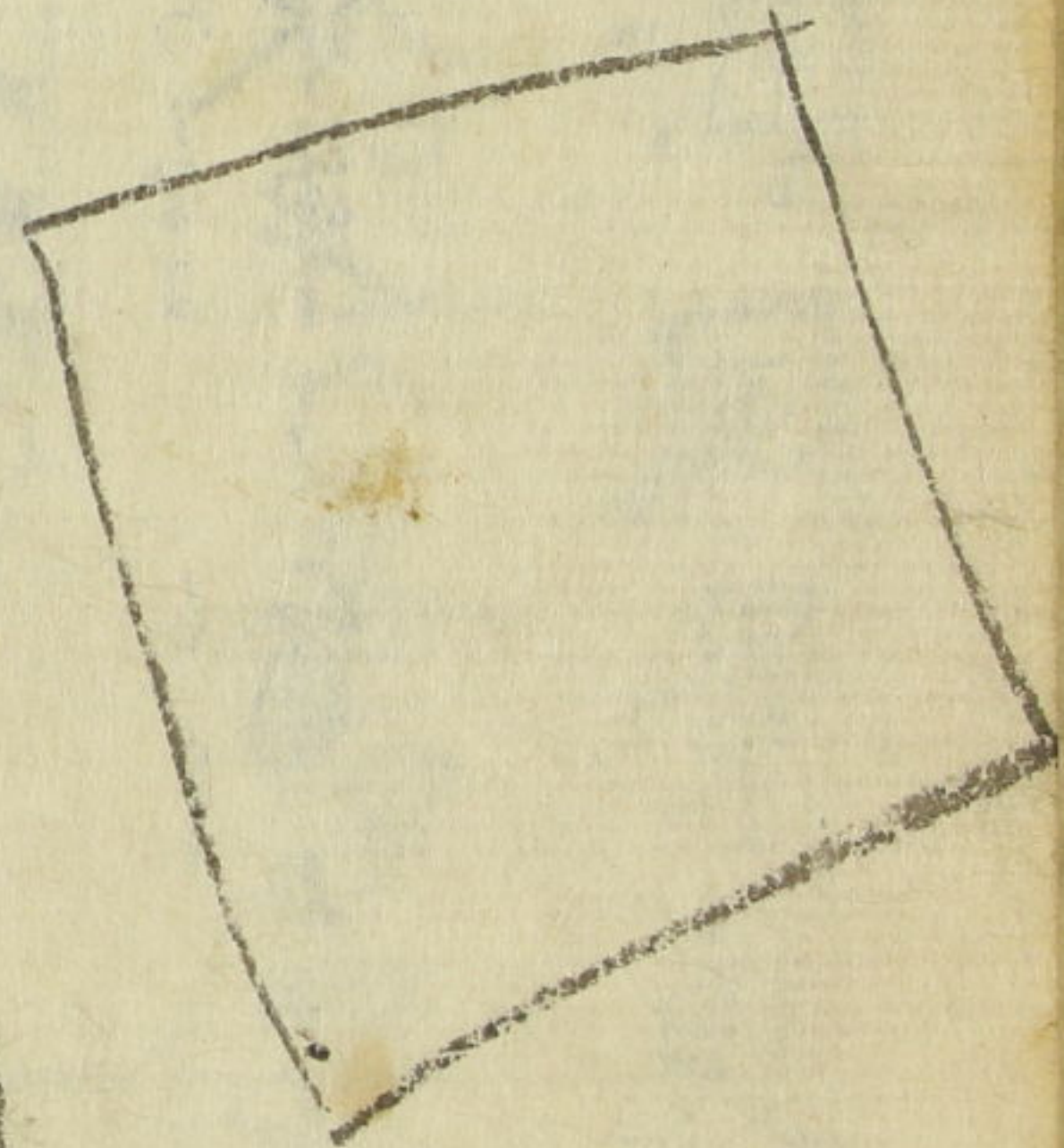
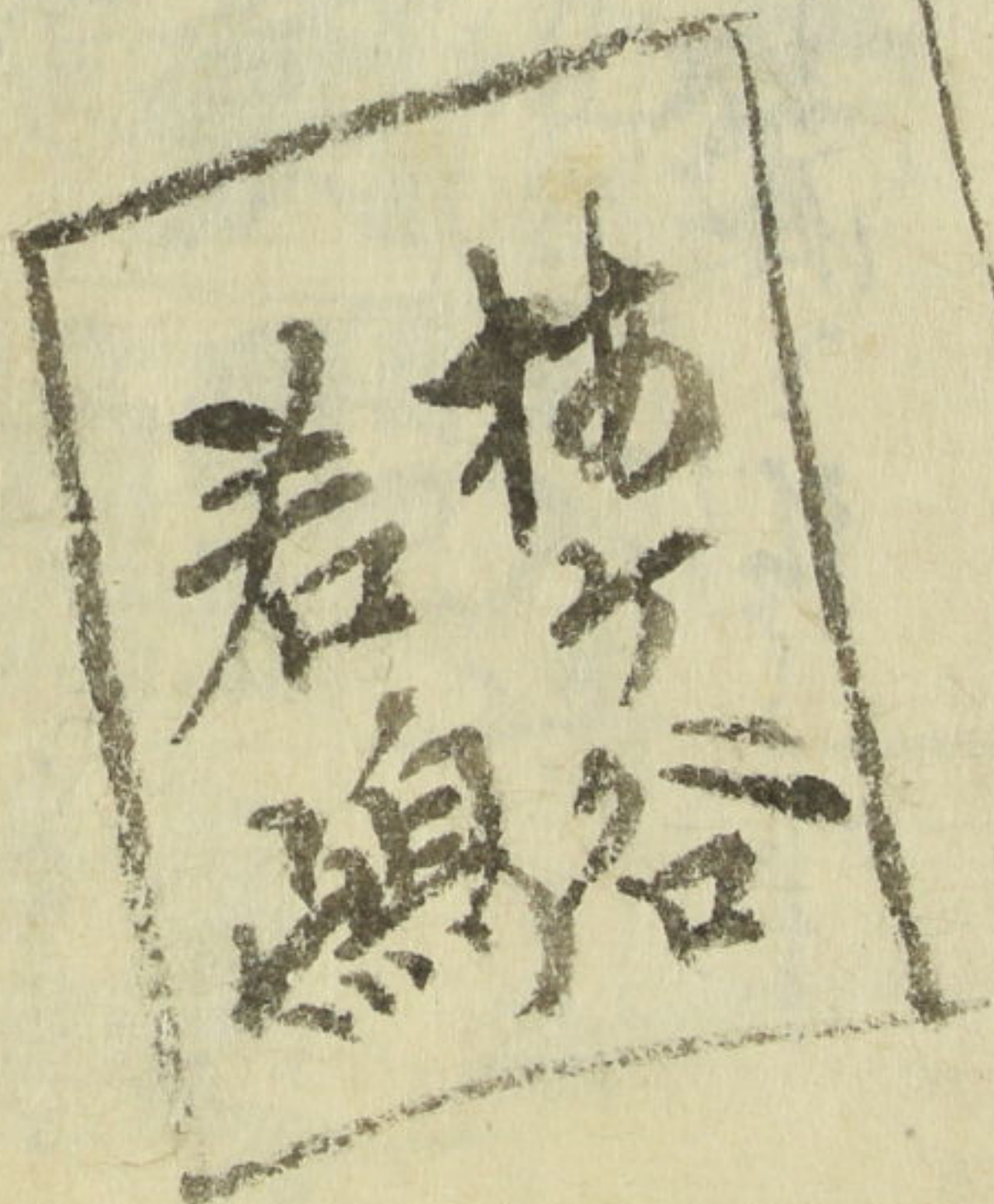
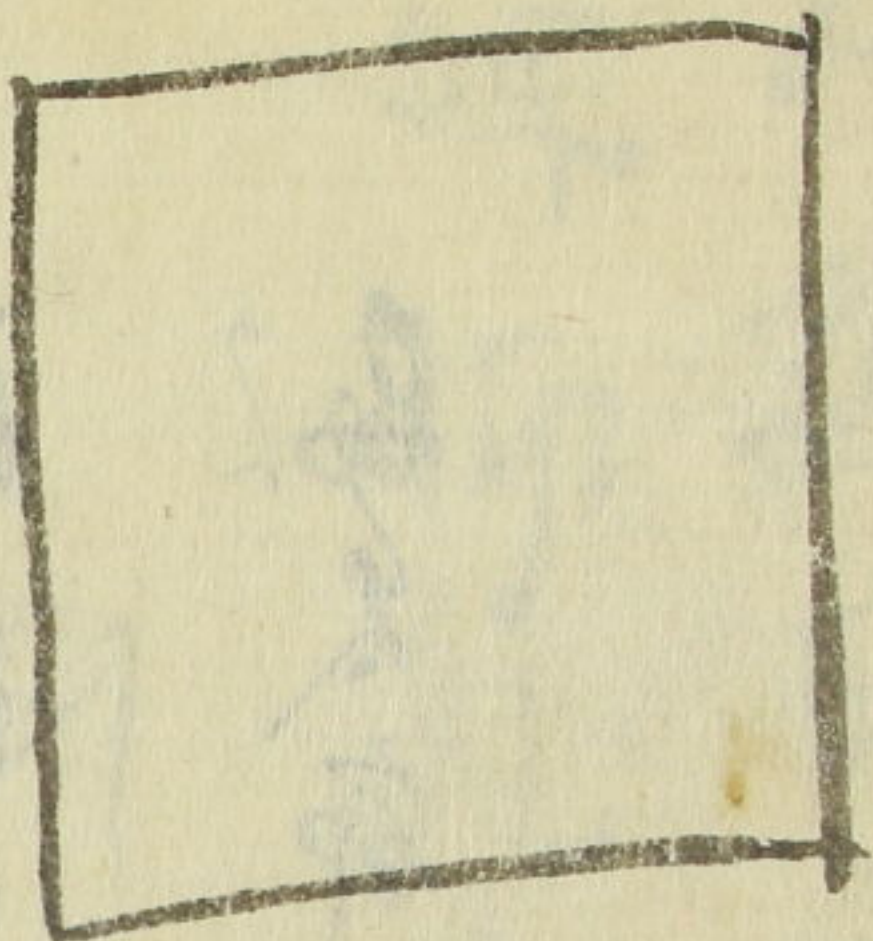
- 一 高作見の名に耐と流す事
- 一 水車と

大正十年八月廿九日
本大學出版部
贈

岩古為報卷の八

却作是の局と海と流の事

又お結しりふま〜長魚の
全を仕〜あ〜と
事〜古
の報〜あ〜



性しやう〜と歌うたの峰みねのふししるも
あらんと扇あふを思おもふの早はや歩あゆも
あを思おも一人ひとりあふ思おもおふのとり
懐なつかしむ女むすめと川かわをささぐと
嘗なほふとの外ほか〜自由じゆうのまの
あふ思おも又またその新あらたい〜と
正ただ親ちかの管くだひ清きよ〜神かみ人ひと道みち知し
あ〜と抹ぬぐ〜と求もと母はは女むすめ家いえを

神かみ性しやう〜と管くだ〜と山やまと泉いづみ〜と
あ〜と道みち理り〜と心こころを〜と
飛と代しろ〜と名な〜と管くだひ清きよ〜と
性しやう〜と扇あふ〜とおふの早はや歩あゆ〜と
神かみ性しやう〜と心こころを〜と
扇あふ〜とおふの早はや歩あゆ〜と
あ〜と世よ〜と心こころを〜と
扇あふ〜とおふの早はや歩あゆ〜と
あ〜と心こころを〜と

の交^{まじ}り〜大^{おほい}酒^いと春^{はる}猪^{いの}事^{こと}〜
 此^{こゝ}に〜
 名^なの是^{これ}も明^{あきら}らしむる事^{こと}あり
 是^{こゝ}に〜
 即^{すなは}ち作^{つく}らるる事^{こと}あり
 中^{なか}に〜
 海^{うみ}に〜

あり〜
 予^{あたくし}が〜
 其^{その}〜
 予^{あたくし}に〜
 予^{あたくし}に〜
 予^{あたくし}に〜
 予^{あたくし}に〜

まゝ葉折ハ〜〜〜
り〜〜〜
部〜〜〜
り〜〜〜
まのあを〜
浪も〜
着〜
原〜

一板香〜
かの〜
鉄金着〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

中世との事 仰上の如くはたしあま
てと我木の迷惑の早くはたし
かゝりてはたしあまのよふおと
初とぬん する事と笑
事とあゝ 仰上致がなむ 是
あゝはたし 後のとて 是れを
所八と 仰上 大ひく 是れを
ららげらるる 仰上 大百姓



あゝはたし 仰上 是れを
事とあゝ 仰上 致がなむ 是
あゝはたし 後のとて 是れを
所八と 仰上 大ひく 是れを
ららげらるる 仰上 大百姓
事とあゝ 仰上 致がなむ 是
あゝはたし 後のとて 是れを
所八と 仰上 大ひく 是れを
ららげらるる 仰上 大百姓

しる事言結自断ありて早
此家より早に所討ありて
早に知るありて山道し
と若くはり赤井お村おさん
とよきおが甚作大ひり若き見
老の若くはりてふ理承あり
まら一と致し徳を興らし
此氣分の至しと追ひおさん

あるはりて名譽ありて法
おやせし事ありて我名譽丈女
若くはりて七ツ名譽ありて
父人の所へお長を申あり
若ん事若くはりて若くはり
此坊の若くはりて承を承あり
しる事言結自断ありて早
此家より早に所討ありて

此の心は... 都て致ふ
 ... 指かき...
 ... 休まぬと...
 ... 理と...
 ...

高太郎水車と... 力の事

... 見り

権... 理... 曲...
 ... 我...
 ... 我...
 ... 我...
 ... 我...
 ... 我...

諸君の御覧のとらふものごとく、下女七名、小
治りも長太郎、一と、史より、又、
定まらば、かゝり、二、
ろろ、舟、かゝり、知、
八、
か、
か、
か、

あゝ、
か、
か、
か、
か、
か、
か、
か、
か、
か、
か、
か、

海にまはるゝ海に魚ある海
まはるゝ中入島にありては三原
の北境と笑ふと中よ素人
まはるゝ一原まはるゝ者いそ
知ると是れあまの次子に
海にまはるゝあまの次子に
揚原のつらまをいふ大言と
あまのつらまをいふ大言と

唯唯のつらまをいふ大言と
とらまをいふ大言と
考へてはつらまをいふ大言と
唯唯のつらまをいふ大言と
考へてはつらまをいふ大言と
唯唯のつらまをいふ大言と
考へてはつらまをいふ大言と
唯唯のつらまをいふ大言と
考へてはつらまをいふ大言と
唯唯のつらまをいふ大言と
考へてはつらまをいふ大言と

らんと思ふ所の一羽の温紙や
何れもまづうまきとて長くと
まきとて後とてふかきとてか
書の類のおくは身も紙も事
あはれまじらふとて公の身も
物にけりしは紙にけりし
温紙の中にも客人もあは
大井の二六うらまを物

まじらふとて物もあはれ
物一ツ一ツとてあはれ
乾く後とて酒は物にけり
物にけりしは紙にけりし
唯一トにけりしは紙にけりし
代々のうらまは紙にけりし
物にけりしは紙にけりし

酒の匂ひ噴きしと浮きまきしは
あふれくしと小まのを時二本塔と
出りあしけく名としらふ小まのり
けんとそくく神をと持来り
如太帝しよしおを春くきまひ
路りしと戸のくぬちが海し一合
まし二合し神よと替へて合
一編しのまきんのみはし

無残保しありと是と道作
あしけくし神よと持来り
あしけくし神よと持来り
あしけくし神よと持来り

名もあしけくし神よと持来り

